

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会
第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ
問題・課題総合評価シート及び「耳川通信簿」

目 次

○問題・課題評価シート【山地領域】	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】	2
○問題・課題評価シート【河道領域】	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】	4
○「耳川通信簿」耳川流域全体（令和6年度）	7

令和7年3月18日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価			
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【山地領域評価】『△』 【評価コメント】 令和6年度は、ヒアリング(崩壊地からの土砂流出、産業基盤の状況)、漂着物量(河道・河口海岸)に関して「悪化傾向」、また、ヒアリング(崩壊地からの土砂流出、自然景観、生物生息環境の変化、漂着物量(河道・河口海岸)、産業基盤の状況)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。			
		12.ダム堆砂	5	主	至近3年間の変動幅の範囲内を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	A	a					
		5.河道縦横断	7	主	状態は基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	－	b					
		25.土砂除去量 (河道・河口海岸)	14	主	状態は基準年の変動幅を下回っていることから「良い状態」と評価される。	－	a					
		30.ヒアリング	15		森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c					
	(2)土石流等の土砂災害の発生状況	14.土石流危険渓流整備 (土砂災害発生状況)	18		(参考:令和3年度～令和5年度) 土砂災害発生件数が至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	B	a	○				
		15.保安施設整備 (土砂災害発生状況)	18									
	(3)自然景観	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地の方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、森林管理者へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c	△				
		17.写真観測(親水景観)	21		前年度と比較して、一部地点を除き大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートの全体の平均は2.8点となり、総合的に「良い状態」と評価される。	B	a					
		30.ヒアリング	28		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	－	－					
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		生物生息生育環境の方向性は、全ての森林管理者から「維持傾向」の回答を得たことから、「維持傾向」と評価される。状態は、一部の森林管理者から「悪い状態」と回答を得たことから、「悪い状態」と評価される。	B	c	×				
	(5)産業基盤の状況	11.裸地面積	34		至近3年間の変動幅を下回ることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△				
		27.流木処理実績	35		状態は、基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	－	a					
		26.漂着物量 (河道・河口海岸)	36		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「悪化傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	C	c					
		16.路網密度	37		(参考:令和5年度評価) 耳川計画区で微増していることから「改善傾向」と評価される。『第八次宮崎県森林・林業長期計画』令和7年目標値(39.7m/ha)を上回っていることから「良い状態」と評価される。	A	a					
		30.ヒアリング	38		山林及び作業道の管理について、森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c					
	(6)漏水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「改善傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	A	b	○				
	(7)洪水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「改善傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	A	b	○				
	(8)砂防施設容量	23.写真観測(砂防施設)	50		前年度と比較すると、余裕率が若干減少していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、水通し天端の上まで堆積していないことから「良い状態」と評価される。	C	a	△				

差色凡例	
	: 治水面(防災面)
	: 利水面(水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例	
【方向性】	A: 改善傾向、B: 維持傾向、C: 悪化傾向
【状態】	a: 良い状態、b: 普通状態、c: 悪い状態

評価凡例	
○	: 問題なく良いレベル
△	: 普通のレベル
×	: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明 主従関係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価				
				評価結果の概要	個別評価		総合評価		事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価 ※2
					方向性	状態				方向性	状態	
ダム領域	(9)貯水池末端部(貯水池への河川流入部)治水安全度	12.ダム堆砂	2	ダム貯水池末端部(貯水池への河川流入部)の河床高は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	C	b	×	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 ダム領域評価:『△』 【評価コメント】 令和6年度は、ダム堆砂(貯水池末端部、水質、漁獲量(内水面)に関して「悪化傾向」、また、ダム堆砂(利水容量)、水質、ヒアリング(漁獲量(内水面)、河床材料)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。				
	(10)利水容量	12.ダム堆砂	13	利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
	(11)取水機能の維持	12.ダム堆砂	20	取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	○					
	(12)放流設備機能の維持	27.流木処理実績	26	基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	—	a	○					
		19.写真観測 (ダム流木到達状況)	28	上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	—	—						
	(13)利水設備機能の維持	27.流木処理実績	26	基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	—	a	○					
		19.写真観測 (ダム流木到達状況)	28	上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	—	—						
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33	椎原橋において至近3か年を上回る濁水長期化日数を示していることから「悪化傾向」と評価される。出水時の濁水長期化の目安の期間(2〜3週間:10度以下)の範囲を上回っていることから、濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×					
		6.魚類	40	全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b						
		7.底生動物	—	令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	—	—						
		8.付着藻類	—	令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	—	—						
		30.ヒアリング	43	ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	—	—						
		6.漁獲量(内水面)	44	漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(15)生物生息空間の連続性	2.河床材料	47	河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリング結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
		6.魚類	49	全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b						
		7.底生動物	—	令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	—	—						

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価			
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2	付着藻類(出水時)は、細胞数の増加はほとんど見られなかったが、出現種数及びクロロフィルaは至近3回の調査結果の変動と同程度であることから、「維持傾向」と評価される。付着藻類に関する漁協ヒアリングの結果、半数以上の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
		30ヒアリング	5	ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-						
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	7	自然景観は前年度と比較して、特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		17.写真観測(親水景観)	7	親水景観は、上流部上流親水箇所等で台風などにより顕著な景観の変化が見られるが、その他の地点では特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a						
	(18)生物生態生育環境の変化	1.水質	40	出水時の流量規模別濁度は、椎原橋で至近3ヶ年(令和2、4、5年度(令和3年度は調査未実施))の最大の値(流量に対する濁度の比率)を上回った。また、出水時の濁水長期化は、荒谷橋において至近3ヶ年を上回る濁水長期化日数を示していることから水質は「悪化傾向」と評価される。水質の濁水長期化の状態は目安の期間(2～3週間・10度以下)の範囲を上回っていることから「悪い状態」と評価される。	C	c	△	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。				
		2.河床材料	47	河床材料は、各河川区間ともに大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c						
		4.河道形状	49	河道形状は、至近3年間の変動幅より多く「改善傾向」と評価される。状態は、瀬と淵の合計数から「普通状態」と評価される。	A	b						
		6.魚類	53	アユやカマツカの個体数については、地点によって違いはあるものの至近3年間(2021年度～2023年度(令和3年度～令和5年度))の変動幅の範囲内の地点が多いこと、アユの産卵床も至近3年間(2021年度～2023年度(令和3年度～令和5年度))の変動幅の範囲内であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b						
		7.底生動物	60	地点により、種数及び個体数の変動や造網型指数の減少傾向が確認されたものの、全体でみると至近3回と概ね同程度かやや増加傾向であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-						
		8.付着藻類	62	2024年度(令和6年度)は、通砂後の濁水の影響により細胞数はほとんど増加していないが、出現種数及びクロロフィルaは至近3回の調査結果と同程度まで増殖していることから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、半数以上の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c						
		9.河岸植生	63	ツルコシ群落が大きく減少し、自然裸地が増加していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c						
		29.水質、底生動物	65	方向性は、至近3年間(令和2年度～令和4年度)の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	B	a						
		30ヒアリング	67	ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-						
		6.漁獲量(内水面)	68	方向性は、至近3年間(令和3年度～令和5年度)と比較すると「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(19)瀬・淵の状況	4.河道形状	71	瀬・淵の数は、至近3年間の変動幅変動幅より多く、「改善傾向」と評価される。基準値(平成19年度～令和3年度の瀬と淵の合計箇所数の平均値)の範囲内であることから「普通状態」と評価される。	A	b	○	【評価コメント】 令和6年度は、水質、河岸植生、漁獲量(内水面)で「悪化傾向」、水質、ヒアリング(付着藻類、河床材料、付着藻類、河岸植生、漁獲量(内水面))で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。				
	(20)橋脚の安定性	5.河道縦横断	73	状態は、橋脚部が洗掘されている東郷橋及び八重原橋では洗掘対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	-	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	73	橋脚基礎の状況に大きな変化は見らず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-						
	(21)護岸基礎部の安定性	5.河道縦横断	78	横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	78	護岸基礎部の状況に大きな変化は見らず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-						
	(22)取水の安定性	1.水質	84	水質の方向性は水道水のpHは至近3年間の変動幅の範囲内、濁度は至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、設定した基準値の範囲内にあることから「良い状態」と評価される。濁度の状態は、設定した基準値を上回ることから「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
		5.河道縦横断	85	主 令和6年度は、基準年(平成23年度)と比較すると、「普通状態」と評価される。	-	c						
		24.写真観測(取水口堆砂状況)	85	取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-						
	(23)治水安全度	5.河道縦横断	88	横断測量及び写真観測の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	95	河川、構造物基礎等の状況は、令和5年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-						
	(24)氾濫発生時の被害状況	31.水害統計資料	112	浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和6年度(台風10号)は、過去に12戸の浸水被害が発生した平成19年の流量規模より大規模の流入量であるが、浸水被害戸数が減少しているため「良い状態」と評価される。	B	a	○					
		20.写真観測(洪水時流下状況)	113	台風10号洪水時に一部流木の漂着が確認された。	-	-						

着色凡例	
	治水面(防災面)
	利水面(利用面)
	環境面

個別評価凡例	
【方向性】	A:改善傾向、B:維持傾向、C:悪化傾向
【状態】	a:良い状態、b:普通状態、c:悪い状態

評価凡例	
○	問題なく良いレベル
△	普通のレベル
×	問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	説明 頁	主 従 関 係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価			総合 評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価 ※2
						方向性	状態				方向性	状態	
河口・ 海岸 領域	(25) 生物生態生育環境の 変化	1. 水質（海域：出水時）	3	概ね至近3年間の変動幅を上回ったことから「悪化傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	C	c	△	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 河口・海岸領域評価：『△』 【評価コメント】 令和6年度は、水質(海域)、漁獲量(内水面)、ヒアリング(漁獲量・漁業の操業環境)、漂着物量(河道・河口海岸)に関して「悪化傾向」、また水質(海域)、河道縦横断、ヒアリング(漂着物量(河道・河口海岸)、船舶の航行(操業上)の安全確保、漁獲量(内水面・海域)、漁業の操業環境)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。					
		3. 底質（海域：出水時）	7	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。化学分析結果が全項目において汚れの目安以下であることから「良い状態」と評価される。	B	a							
		6. 漁獲量（海域）	9	至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c							
		6. 漁獲量（内水面）	9	至近3年間の変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。（参考：方向性は令和4年度評価）	C	c							
		7. 底生動物（海域：出水時）	11	概ね至近3年間の調査結果の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。	B	-							
		10. 藻場（海域）	13	至近3年間と比較して分布・密生範囲が拡大したことから、「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b							
	(26) 防災機能の維持	28. 航空写真（汀線比較）	21	至近3回ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：令和2年度評価）	A	a	○						
	(27) 親水空間の確保	17. 写真観測（景観・親水）	23	令和5年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-	○						
		28. 航空写真（汀線比較）	25	至近3回及び基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：令和2年度評価）	A	a							
	(28) 港湾施設の機能維持	25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	28	状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	-	a	○						
	(29) 治水安全度	5. 河道縦横断	31	基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	-	a	○						
	(30) 船舶の航行（操業上）の 安全確保	5. 河道縦横断	36	確保率は96％であり、100％確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	-	c	×						
		25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	37	状態は、基準年の変動幅を下回っていることから「良い状態」と評価される。	-	a							
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	38	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	-	-							
		21. 写真観測（海域漂流状況）	39	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	-	-							
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	39	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	-	-							
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	40	至近3年間の変動幅の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」の回答を得た。	C	c							
	(31) 海岸環境の変化	30. ヒアリング	41	日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c	×						
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	44	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	-	-							
	(32) 漁業の操業環境	26. 漂着物量（河道・河口海岸）	45	至近3年間の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。	C	c	×						
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	48	至近3年間の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	C	c							
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	49	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	-	-							
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	50	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	-	-							
		6. 漁獲量（海域）	51	至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c							
		30. ヒアリング	52	漁協ヒアリングの結果「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答を得た。	C	c							
	(33) 氾濫発生時の被害状況	31. 水害統計資料	54	浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和8年度(台風10号)は、過去に12戸の浸水被害が発生した平成19年の流量規模より大規模の流入量であるが、浸水被害戸数が減少しているため「良い状態」と評価される。	B	a	○						
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	55	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	-	-							

着色凡例	
	：治水面（防災面）
	：利水面（水利用面）
	：環境面

個別評価凡例	
【方向性】 A：改善傾向、B：維持傾向、C：悪化傾向	
【状態】 a：良い状態、b：普通状態、c：悪い状態	

評価凡例	
○：問題なく良いレベル	
△：普通のレベル	
×：問題があり悪いレベル	

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

「耳川通信簿」耳川流域全体（令和6年度）

「耳川通信簿」耳川流域全体（令和6年度）

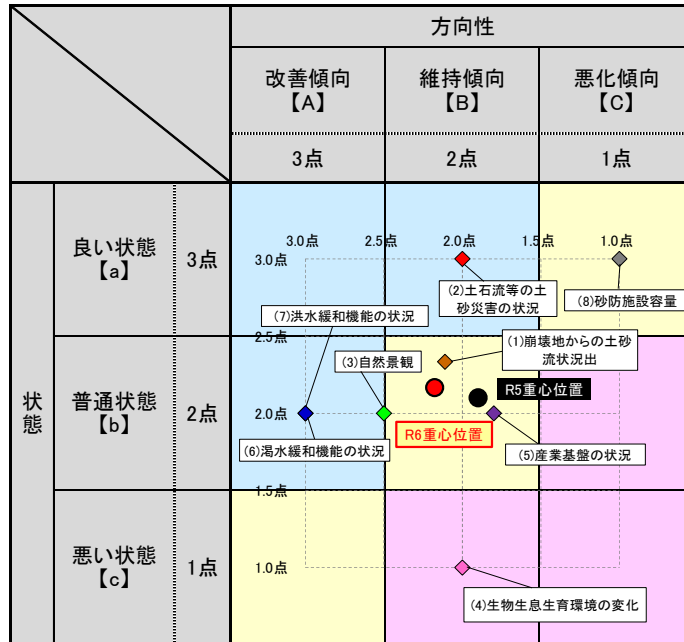
資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	R6		R5		R4		事務局評価	領域の評価				評価改善委員会の評価
			評価	得点	評価	得点	評価	得点						
資料④-1	山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	△	1	△	1	×	0	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 山地領域の得点率は63%であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「良いレベル○」と評価される。令和4年度及び令和5年度を上回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(4)生物生息生育環境の変化の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	山地領域	R6	R5	R4	○△×
		(2)土石流等の土砂災害の発生状況	○	2	○	2	△	1		問題・課題の数	8	8	8	
		(3)自然景観	△	1	△	1	△	1		配点	16	16	16	
		(4)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	△	1		得点	10	8	7	
		(5)産業基盤の状況	△	1	△	1	△	1		得点率	63%	50%	44%	
		(6)治水緩和機能の状況	○	2	△	1	×	0		得点率の評価	○	△	△	
		(7)洪水緩和機能の状況	○	2	△	1	△	1						
		(8)砂防施設容量	△	1	△	1	○	2						
資料④-2	ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度	×	0	×	0	×	0	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ダム領域の得点率は43%であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度、令和5年度と同じ得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(9)貯水池末端部治水安全度（10）利水容量及び（14）生物生息生育環境の変化、（15）生物生息空間の連続性の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	ダム領域	R6	R5	R4	○△×
		(10)利水容量	×	0	×	0	△	1		問題・課題の数	7	7	7	
		(11)取水機能の維持	○	2	○	2	△	1		配点	14	14	14	
		(12)放流設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点	6	6	6	
		(13)利水設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点率	43%	43%	43%	
		(14)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	△	△	
資料④-3	河道領域	(15)生物生息空間の連続性	×	0	×	0	×	0	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度と同じ得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、（16）付着藻類の変化及び(22)取水の安定性が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河道領域	R6	R5	R4	○△×
		(16)付着藻類の変化	×	0	×	0	×	0		問題・課題の数	9	9	9	
		(17)河川景観の変化	△	1	△	1	△	1		配点	18	18	18	
		(18)生物生息生育環境の変化	△	1	×	0	×	0		得点	9	9	3	
		(19)瀬・淵の状況	○	2	○	2	×	0		得点率	50%	50%	17%	
		(20)橋脚の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率の評価	△	△	×	
		(21)護岸基礎部の安定性	△	1	△	1	△	1						
		(22)取水の安定性	×	0	△	1	×	0						
		(23)治水安全度	△	1	△	1	×	0						
		(24)氾濫発生時の被害状況	○	2	○	2	×	0						
資料④-4	河口・海岸領域	(25)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	△	1	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 河口領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度及び令和5年度を上回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、（30）船舶の航行（操業上）の安全確保、（31）海岸環境の変化、（32）漁業の操業環境が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河口・海岸領域	R6	R5	R4	○△×
		(26)防災機能の維持	○	2	○	2	○	2		問題・課題の数	9	9	9	
		(27)親水空間の確保	○	2	○	2	○	2		配点	18	18	18	
		(28)港湾施設の機能維持	○	2	×	0	×	0		得点	11	9	7	
		(29)治水安全度	○	2	○	2	○	2		得点率	61%	50%	39%	
		(30)船舶の航行（操業上）の安全確保	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	○	△	×	
		(31)海岸環境の変化	×	0	×	0	×	0						
		(32)漁業の操業環境	×	0	×	0	×	0						
		(33)氾濫発生時の被害状況	○	2	○	2	×	0						
総合評価			【耳川水系目標】耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和6年度は、耳川水系全体としての得点率は令和4年度及び令和5年度を上回っているが、ダム領域と河道領域が普通レベルであることから総合的に普通のレベル「△」と評価される。 各領域において悪い評価の問題・課題については、今後もモニタリングを継続しながら、改善に向けて各種行動計画を推進していく必要がある。							耳川水系	R6	R5	R4	○△×
										問題・課題の数	33	33	33	
										配点	66	66	66	
										得点	36	32	23	
										得点率	55%	48%	35%	
										得点率の評価	△	△	×	

着色凡例

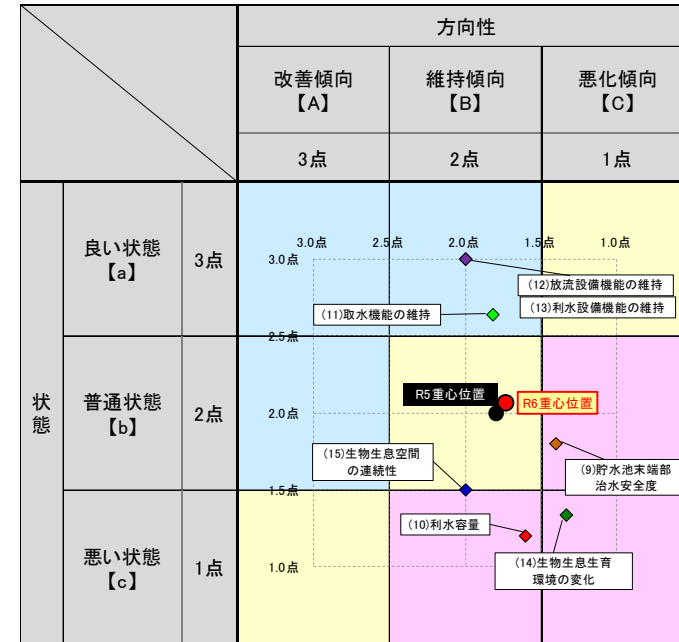
	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

課題評価の凡例
○：問題なく良いレベル
△：普通のレベル
×：問題があり悪いレベル

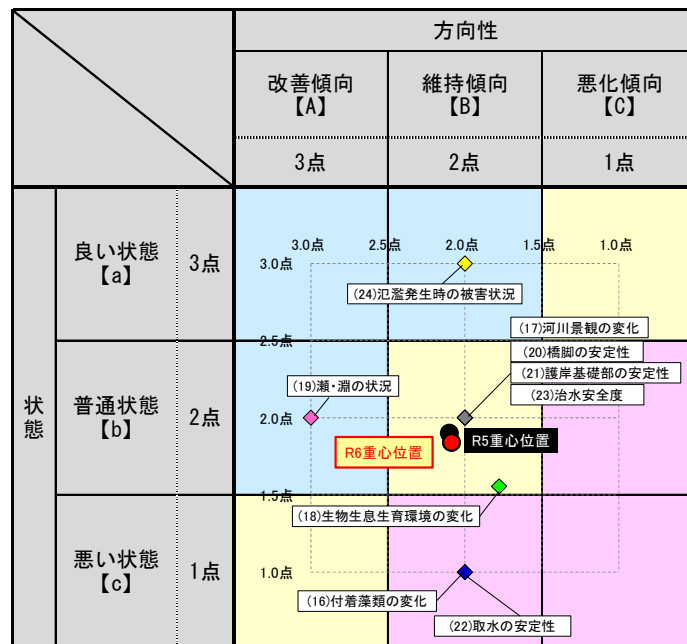
山地領域の総合評価（令和6年度）



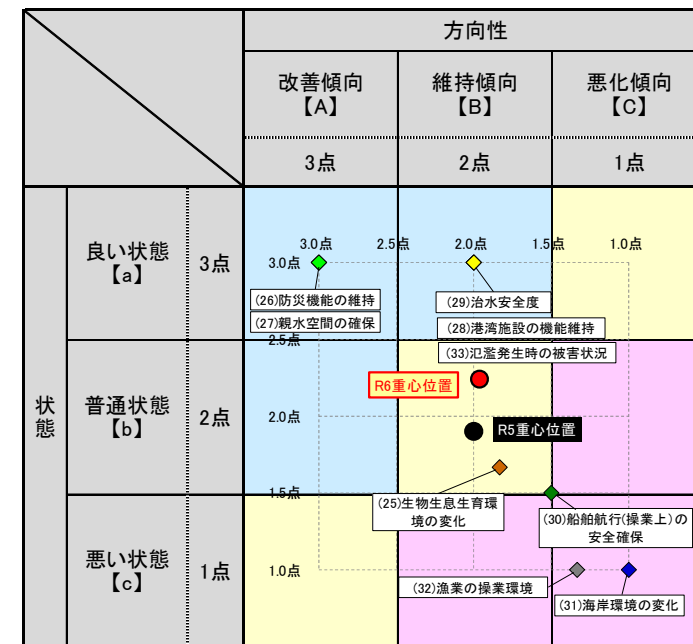
ダム領域の総合評価（令和6年度）



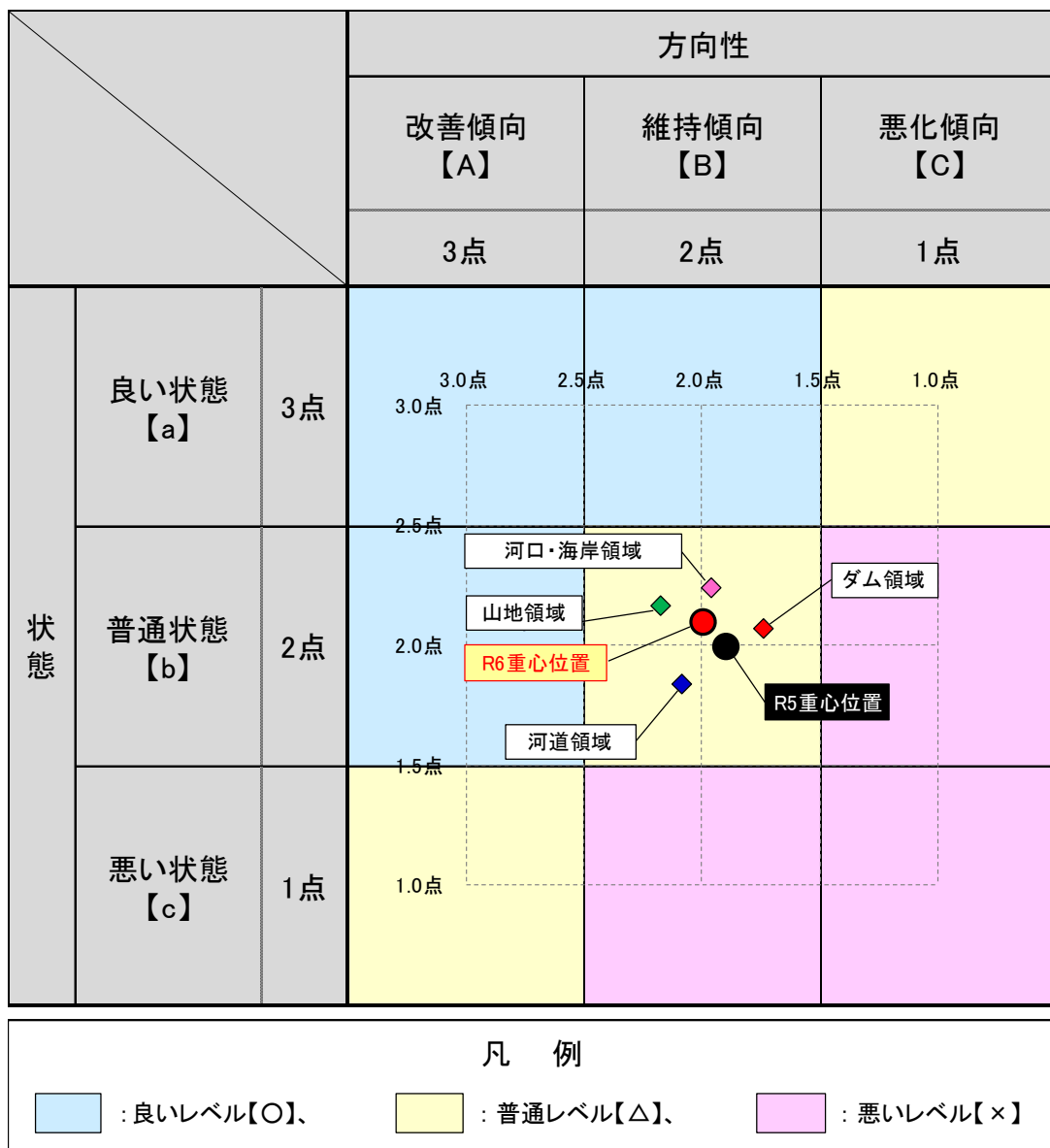
河道領域の総合評価（令和6年度）



河口・海岸領域の総合評価（令和6年度）

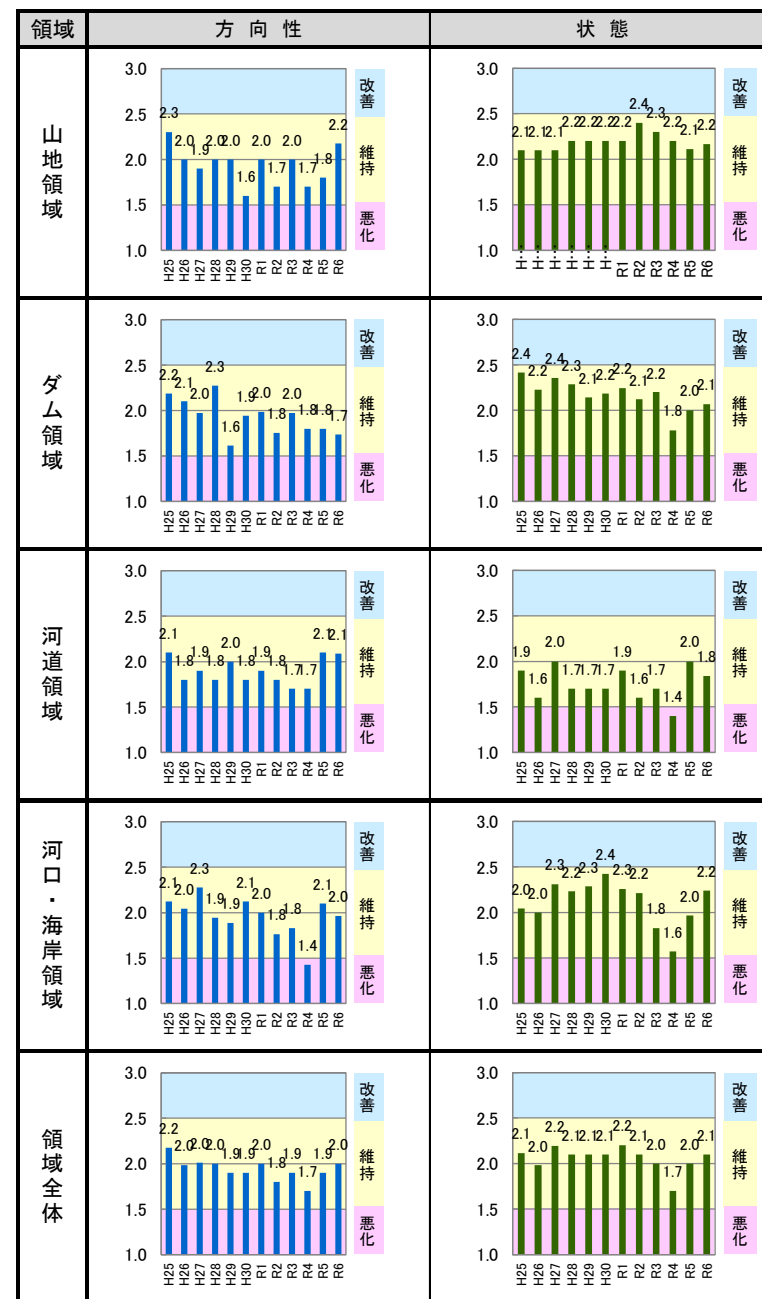


耳川流域全体の総合評価（令和6年度）



注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。

注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。